

第 419 回鉄鋼流通問題懇談会

2011年11月22日(水) 14:00

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、新潟、福井地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇11月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
 - (3) 総括：林全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2012年2月21日(火) 14:30 ～

於：日本鉄鋼連盟4階会議室

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2011年11月)

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		メタルワン	住友商事	阪和興業	三井物産スチール
1. 需給動向 (景況感)		各流通は上期で在庫量のある程度適正数量に調整している。一方需要については、構造管は引合いが増えているものの盛り上がりには欠け、本格的な出荷回復は年明けから春先以降に動き出すものと言われている。配管については震災の復旧と復興需要の端境期で、需要回復はこれからになりそうである。ただ全体的にはプラント関連の配管は低調である。	9月末の三品在庫は、前月比+3万2千トン増加の437万9千トンとなった。過去10年の平均で見れば、9月末は8月末比で約7万トン減少する傾向にあり、これを加味すれば約10万トン、3月末比で見れば約55万トンの大幅増加となっている。自動車に加え住宅建材関連でも荷動き回復の兆しは出ているが、恒常的な円高による輸出商談の低迷、輸入材の入着、国内在庫水準の高さ等により需給のバランスが崩れ、在庫率も2カ月連続で2.44カ月となるなど、過剰感が強くなっている。こうした中、市況も弱含みながら模様眺めの状態が継続していたが、スクラップ価格の低迷などの影響もあり、先安感が浸透している。	9月末厚中板在庫は、370千トで前月比4.6千ト増加。ムキ在庫、規格品在庫とも増加。切断量は170千トで在庫率は203%と前月比減少。各業者とも下期に入り、上期比稼動は堅調推移。	棒鋼：9月は原料鉄スクラップがゾリ高展開であり単月の発注明細が集中、一転10月以降は原料鉄スクラップが急落し先行き不透明となり新規商談は様子見状態が継続している。 形鋼：足元のスクラップ価格下落の影響から、二・三次店・FABは様子見状態。全体的には、短納期中小案件・復興案件等、荷動きは底堅い。
2. 需要産業動向		震災の影響により、建築物の延期や中止が相次いでいたが漸く首都圏の物件が動き出した。しかし自動車関係はタイの洪水、ヨーロッパの金融不安、新興国の成長率の鈍化、超円高の影響により、足元は震災前のフル生産状態であるが第4四半期以降は相当な減産も予想される。建機は中国向けの依存度が大きいメーカーは減産幅が大きく、依存度が小さいメーカーの生産量は今のところほとんど変化していない。	9月の国内自動車(四輪車)生産台数は、88万4千台(前年同月比△4.5%)と2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。また、電機製品もエアコン29万9千台(同△13.2%)、冷蔵庫16万3千台(同△10.7%)、薄型テレビ41万8千台(同△59.0%)となるなど、前月割れが目立っており、生産水準の低下が鮮明化しつつある。	9月末造船手持工事量は38,572千GTで、前月比3,301千GTの減少。7-9月の新造船受注累計は1,074千GTで、前年同月比(10年7-9月)31.9%と減少傾向継続。また、9月の建設機械出荷金額は、2,285億円の前年同月比16.4%の増。内訳は内需が9.3%の増。外需は19.8%の増。東日本大震災でのサプライチェーン問題も、徐々に解消され、内需、輸出とも好調推移。	棒鋼：鉄筋用小型棒鋼の9月出荷量は、70.3万ト(前年同月比5.7%増)となり26ヶ月振りに70万ト台を回復。首都圏を中心にマンション・再開発等の案件が増えメーカーの生産・出荷が回復基調。 形鋼：海外情勢懸念、先行き不安感台頭。流通各社はメーカーへの申込を絞っており、市中在庫減少傾向なるも、市況は弱含み。
3. 輸出入動向		2011年6月以降、溶鍛接管の輸入量が急増し、前年同期比42%UPとなっている。	9月の薄板三品の入着量は22万9千トンと、前月比△5万5千トン(同△24%)となったが、円高傾向が続く中でもあり、これは一時的な減少と捉えられる。一方、9月の全鉄鋼輸出は、前年同月比44万トン減少の330万トンとなった。	9月の輸入通関は、3.4万トで、前月比17%の増加。輸出は28万トで前月比同水準。	9月異形棒鋼輸出量：12,956ト(前月比▲6,151ト) 韓国向け12,536ト(前月比▲6,438ト) 9月H形鋼輸出：31,832ト(前月比+2,137ト) 韓国・中国・台湾向け減少、中東向け増加。 9月H形鋼輸入：3,437ト(前月比▲1,660ト) 韓国1,999ト(前月比▲3,085ト)・中国1,483ト(前月比+1,426)
4. 海外市場動向		ラインパイプ：欧州大型案件の遅延等を背景に、これまで想定されていた2012年度のタイト感が全世界的に薄れてきている。 油井管：11月4日付け米国稼動リグ数は2,026基と前年比343基増加するなど掘削は堅調、市中在庫も徐々に減少してきている。各地でミルの増強が予定されていることから、汎用品のタイト感はない。一方13Cr系など高級材は供給者が限られている上、需要は引き続き高く、日本各社ともFull稼動・生産で2012年前半までタイトな状況。	中国では、9月以降は建設活動・消費の鈍化に加え、新規輸出量の減退や在庫損への警戒から、製造業の生産活動や景況感もかなり低下しつつある。7-9月のGDP成長率が3期連続前期比割れの+9.2%程度に低下するなど、減速感が強まっている。米国は、欧州の債務不安のほか、国内では雇用や住宅市場への停滞が続く中、景気の下振れを警戒する動きも出てきている。欧州では、ギリシャの債務危機に端を発した金融市場の混乱が、経済全体を減速させているとの見方から、欧州委員会は第3・第4四半期のユーロ圏の経済成長見通しをそれぞれ0.2%、0.1%に下方修正した。	近年の東アジアにおける、厚板設備の増加と、需要減かさなり、海外厚板市況は下落傾向。	10月末から、中国向け鉄鉱石 Spot 価格が反転し、スクラップ市場も各国 Supplier が値戻しを図るべく売り腰を強めているものの、各国 Buyer が積極的に買いに動く姿勢はだ見えておらず睨み合いの状況。製品市場に於いても、欧州経済をはじめ先々の情勢が不透明な中、各国 Buyer は依然市場様子見姿勢で当用買いに徹しており、需要は盛り上がりには出ているものの、先行きは依然不透明。
5. トピックス			10月初めに発生したタイ洪水の影響により、日系企業が多数入居する工業団地が冠水し工場が操業停止となるなどの大きな被害が発生しており、自動車・電機業界などで生産活動の下方修正が相次いでいる。		

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2011年11月)

発表者 発表項目	メーカー J F E スチール
1. 需給動向 (景況感)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災の影響による落ち込みから順調な回復過程を辿ってきた日本経済は、欧州の財政危機、それに伴う円高、アジア経済の減速懸念によって先行きへの不透明感が強まっており、生産、消費活動の減速が明確化してきた。米国経済の回復力が力強さを欠くなか、欧州では、ギリシアの財政危機からユーロ圏の景気が強い下押し圧力にさらされており、アジアでは、中国経済の減速、タイの洪水による影響など、景気の下振れリスクが高まっている。 ・ 海外では、9月の世界粗鋼生産(64カ国)が25ヵ月連続で前年比プラスとなる1億2,357万トン(前年比9.7%増)となり、中国の10月の粗鋼生産は5,467万トン(同8.7%増)と引続き年率7億トンを超える水準が続いている。生産拡大が続く中国、韓国では供給過剰・需給緩和の傾向に目立った改善が見られず、鋼材輸出も依然高位で推移している。こうしたなか、中国では国内市況の軟化が続き、韓国ではミルによる輸出積極化の動きが報じられるなど、アジア市場の動向には引続き注視が必要である。 ・ タイの洪水は日本国内での生産活動にも波及しており、回復軌道を辿ってきた鉄鋼需要環境には暗雲が漂っており、不透明感を強く増している。欧米諸国を中心とした金融不安、アジア経済の減速懸念、円高を契機とした製造業の空洞化懸念とそれに伴う鋼材内需の海外流出、東アジアにおける鉄鋼供給力拡大と輸入鋼材の増大など、日本鉄鋼業を取り巻く環境には依然厳しいものがある。内外経済動向、鋼材需給動向等へ細心の注意を払いつつ、鋼材の安定供給を続けていく必要がある。
2. 需要産業動向	<p>[建 築] 9月新設住宅着工戸数6.4万戸(前年同月比10.8%減)。6ヵ月振りに前年比減。年率換算着工戸数74.5万戸。2年振りに75万戸割れ。</p> <p>[自動車] 10月国内販売36万台(前年同月比24.8%増)。14ヵ月振りに前年比増。9月完成車輸出48万台(〃8.9%増)。2ヵ月連続の前年比増。8月四輪車生産88万台(〃4.5%減)。2ヵ月振りに前年比減。</p> <p>[産業機械] 10月工作機械受注 前年同月比25.9%増の1010億円。23ヵ月連続前年比増。</p> <p>[造 船] 9月末手持工事量 3,857万GT(前月比4.3%減)04年6月以来の4,000万GT割れ。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] 9月の全鉄鋼輸出は、330万トン、前年同月比11.7%減と7ヵ月連続前年比減。</p> <p>[輸入] 9月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比17.0%増の31万トンと21ヵ月連続で増。国別では、中国(前年比83.7%増)、韓国(〃16.0%増)、台湾(〃1.9%減)。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の世界粗鋼生産は、前年比9.7%増の1億2,357万トン。25ヵ月連続前年比増。 ・ 10月の中国の粗鋼生産は、前年比8.7%増の5,467万トン。前月比では203万トン減。